

# 新しいタイプのプロジェクトXを！



中村 桂子

\* JT 生命誌研究館 館長

プロジェクトXというNHKの人気番組がある。9時のニュースの後に始まるというタイミングのよさも手伝って私もよく見る番組の一つだ。その時の技術水準や資金状況では不可能ではないかと思われる目標を達成する技術者たちの物語である。苛酷なレースでの勝利を目指したオートバイのエンジンの開発、初めての高層ビルや海を渡る橋の建設など、どの仕事もロマンと呼ぶに相応しい大きさを感じさせる。インスタントラーメンという今や日常化した食べ物がどれだけ独自のアイデアを必要としたかということがわかるのも面白い。

そこに登場する人々は皆爽やかで、苦勞を楽しみ、目的を達成した人生に誇りを抱いている。誰が見ても気持ちが良い。ところが、重ねて同じタイプの話しに接しているうちに、少し居心地の悪さを感じてきた。これは私だけではないらしく、同じようなことを言う人が少なくない。

ここで取り上げられる話題のほとんどは、日本経済の高度成長期のものだ。皆が日常生活に便利さや豊かさを求め、それが企業や国の目標と合致していた。しかも、憧れの生活や手本とすべき技術は海の向こうにあった。

今は違う。国は、科学技術振興を唱え、米国との競争に勝つことを技術者に求めるが、その先にどんな生活があるのかは見えていない。一方、生活者はこれ以上の便利さ、豊かさを以前ほどには求めている。もちろんそれを否定はしないが、それを求めたがゆえに失うもののあることにも気づき、むしろ失うものの方が大きいのかもしれないとさえ思っている。

国の目標が皆に“やるぞ”という気を起こさせるものであれば、新しいプロジェクトXが次々と生まれるはずだ。日本人はその能力を持っているし、第一それが好きなのだ。産総研が中心になって進める研究開発は、是非新しいプロジェクトXであってほしいと願っている。